

医学系研究に関する情報の公開について

研究機関名*	独立行政法人労働者健康 安全 機構 大阪労災病院
研究課題名*	Holter 心電図を用いた心房細動アブレーション後の長期予後の予測因子の検討
所属科*	循環器内科
研究責任者*	江神 康之
研究実施期間	開始 西暦 承認日 ~ 終了 西暦 2020 年 12 月 31 日 (予定)
対象疾患(予定症例数)	(症例)
研究対象となる治療・手術・検査の時期	自 西暦 承認日 ~ 至 西暦 2020 年 12 月 31 日
研究概要*	心房細動に対するアブレーション治療の有用性はほぼ確立されてきており、治療成績も改善されてきているが、長期的には再発することが報告されている。心房細動の再発の多くは術後 6-12 ヶ月以内に発生することが多いが、それ以降についても徐々に再発することも報告されている。また、心房細動患者の多くは血栓塞栓症予防目的で抗凝固薬を内服しているが、経過中、出血イベントを発症したり、観血的処置を要することがあり、一時的に抗凝固の中止を余儀なくされることがある。以上から、長期的な心房細動の再発を予測できる因子を確立する意義は非常に大きいと考えられる。これまでも術前のリスクファクターや心エコー検査データによって長期的な予後を予測する方法の報告はされているが、これらの因子はアブレーション後に変化することがある。そこで、治療後安定した状態(1年後)の follow up 検査 data を用いて心房細動の再発因子を同定する意義は大きいと考えられる。今回は、通常行われる Holter 心電図から得られた data を解析し、アブレーション後の長期的な再発因子を検討する。
倫理的配慮・個人情報の保護の方法について*	連結可能匿名化を行う。対応表は大阪労災病院 循環器内科で厳重に保管する。学会や論文等で研究成果を発表する場合も、個人を特定できる情報を明らかにすることは決して行わない。
研究の問い合わせ先*	大阪労災病院 循環器内科

* 記入必須項目